

# 日常≧非日常

編著・NEKOPLA

- 専用おみくじと汎用おみくじの分類
- 使用頻度差緩和の取り組み
  - Amazon の箱いろいろ
  - 大学名規模のヒエラルキ
  - 岬ゆきのバス



## 日常≧非日常

NEKOPLA

# 専用おみくじと汎用おみくじの分類

初出：2007年3月26日

最近になって、旅行がてら寺社を巡ることが多くなった。どれだけ多いかと言うと、この3ヶ月の間だけでも、これだけの寺社に行ったのだ。

- ・徳島眉山 天神社（徳島）
- ・熱田神宮（愛知）
- ・川崎大師（神奈川）
- ・明治神宮（東京）
- ・成田山 新勝寺（千葉）
- ・鹿島神宮（茨城）
- ・伏見稲荷大社（京都）
- ・春日大社（奈良）
- ・東大寺（奈良）
- ・千光寺（広島）
- ・巖島神社（広島）
- ・報恩寺（中国・蘇州）
- ・靈穩寺（中国・杭州）
- ・鶴岡八幡宮（神奈川）
- ・江島神社（神奈川）
- ・善光寺（長野）
- ・日光東照宮（栃木）
- ・常磐神社（茨城）

正月には、寺社をいくつもハシゴして巡る旅（「詣で巡り」と称している）をしたこともあってか、全国的に有名な場所もいくつか巡ることができた。特に今年は厄年なので、これだけお参りすれば向かうところ敵なし……だと思いたい。数打ちや当たるといってもないが、要は気の持ちようである。

しかし、残念ながら信仰や歴史的な背景などには関心がなく、興味の対象は、主に参道や境内、社殿のデザインや雰囲気などである。そのほか、寺社は広く全国に分布していることから、スタンプラリー的な巡り方を楽しむのも良い。神様・仏様には非常に失礼な参拝客だとは思いますが、どうか許してください。



さて話は変わって、寺社といえば「おみくじ」である。普通は年に一度、初詣のときに引いてしまえばそれで十分なおみくじ。しかし、これだけの数の寺社を巡ったこともあり、記念に引いて帰るだけでも随分な数になってしまった。

この引いたおみくじはどうするのか。慣例的には木に結ぶ人が多いと思うが、ゴミを放置しているような気分になるため、個人的には遠慮している。それに、お金を払って買ったおみくじを、すぐその場に置いて帰るといっても、なんだか勿体無い気がしてならない。そんなわけで、引いたおみくじは持ち帰って、何気なく部屋に置いて保存していたのであった。

特にコレクションしていたわけでもなく、ただなんとなく蓄積されていったおみくじ。しかし数が集まってくると、そこに何らかの特徴や傾向が見えてくるのは世の常である。ことおみくじも例外ではなく、その数枚のおみくじサンプルから、私はあることを発見してしまった。それは、

## おみくじは「専用おみくじ」と「汎用おみくじ」に分類できる

ということである。

この「専用」、「汎用」とは何なのか。以下では、私がこれまでに集めたおみくじ例に取り、それぞれの特徴を紹介していこうと思う。

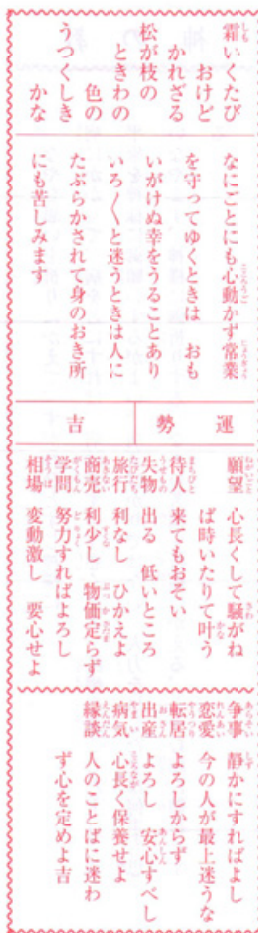
## 汎用おみくじ

まず「汎用おみくじ」とは、その名の通り汎用的なおみくじのことである。身近にある氏神様などに置いてあるのは大体がこのおみくじで、その素性は、業者が作った『おみくじ』を寺社が買って置いているものである。いくつかのデザインが確認されているが、運勢欄のフォーマットが共通のため、見てすぐに汎用おみくじだと判別が可能である。

## 汎用おみくじ（女子道社製）

運勢部分は共通した（あるいはよく似た）フォーマットであるが、タイトル部分のデザイン違いが複数種類存在する。以下のページでは、18種類のおみくじが確認できる。

<http://www.kanko-shunan.com/saihakken/josidousha.html>



少し調べてみると、これらの汎用おみくじの多くは、山口県にある「女子道社」という会社で製造されているものらしい。そこのおみくじは、実に全国シェア7割というから、どこにでも見られるのも納得ができる。そのほか、製造会社は全国に6社あるらしい？

## 専用おみくじ

一方、特筆すべきが「専用おみくじ」の存在である。専用おみくじとは、どこの寺社でも同じものが見られる汎用おみくじと違って、特定の寺社のオリジナルおみくじのことである。専用おみくじにはその寺社の名前が入っており、サイズやデザインが汎用のものとは大きく異なっている。全国的に有名な寺社や、規模の大きな寺社では、ほとんどの場合、専用おみくじが頒布されている。推測するに、比較的金に余裕のある寺社が、他寺社との差別化を図るために専用おみくじを独自に発注しているであろう。



ここで気になるのは、このような専用おみくじが全国にどれほどあるのか？ ということである。どんな種類のおみくじが置いてあるのかは、実際に寺社に行っておみくじを引くまで全く分からない。おみくじに関するウェブページを探してはみたものの、変わったおみくじの収集ページは見つけたが、普通のおみくじは見つけ出すことができなかった。

今後寺社を巡る際には、この汎用おみくじ・専用おみくじの分類に注目し、専用おみくじの分布を調査していくことにする。

# 専用おみくじ

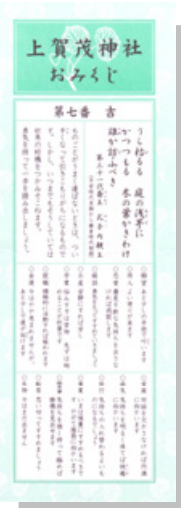
寺社の名前が入っており、形や紙質も様々に趣向を凝らしたオリジナルのおみくじである。全国にどれ程の数が存在しているのか、その全貌を知ることはいらない。



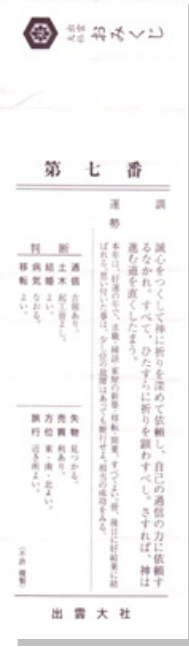
↑ 石清水八幡宮 (京都市)



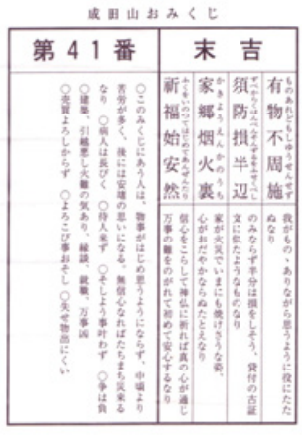
↑ 八坂神社 (京都市)



↑ 上賀茂神社 (京都市)



↑ 出雲大社 (島根)



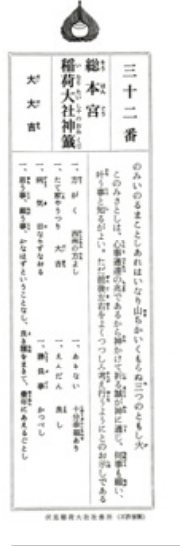
↑ 成田山不動尊 (大阪)



↑ 浅草寺 (東京都)



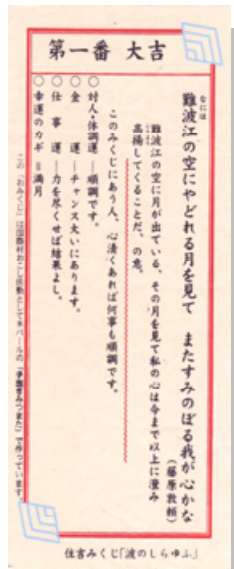
↑ 鞍馬寺 (京都市)



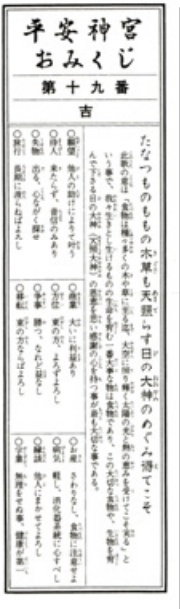
↑ 伏見稲荷大社 (京都市)



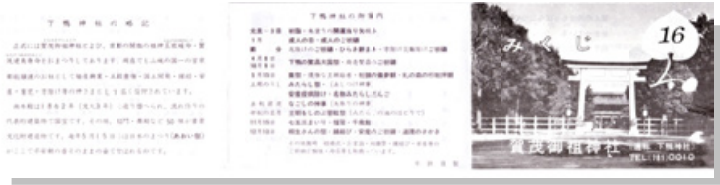
↑ 北野天満宮 (京都市)



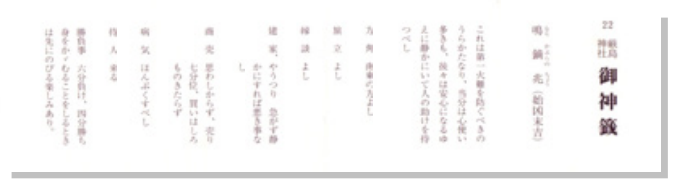
↑ 住吉大社 (大阪)



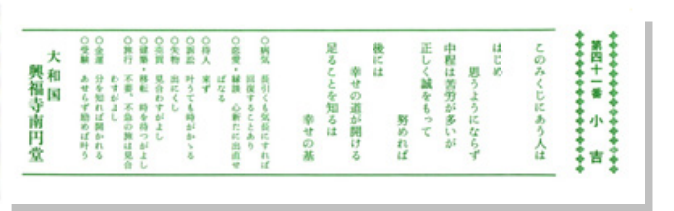
↑ 平安神宮 (京都市)



← 鴨神社 (京都市)



← 厳島神社 (広島)



← 興福寺 (奈良)

※ 全てのおみくじが同じ縮尺ではありません。



# 分類未定おみくじ

専用おみくじなのか、汎用おみくじなのか、現時点では分類が不明なおみくじを、暫定的に「分類未定おみくじ」とする。



見る人の  
こころに  
にまかせ  
おきて  
木末に  
すめる  
月の影かな

見る人の  
運気盛にして事をなすによ  
いけれど万事細やかにきを  
つけて一度おもい定めたこ  
とはわきめもふらず一心に  
なさい 何事も成功します

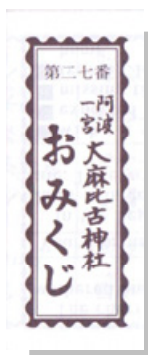
吉	勢	運
相場 変動する 手を打て	学問 努力すればよろし	商売 物価上下定まらず
旅行 利なし 行かぬが吉	失物 すぐには出ない	待た 音信あり来る
願望 おそいが思う通	競争 心相かにして吉	恋愛 恋敵に注意
転居 十分でない	安産 産後も順調	心相かにして吉
病氣 軽し 安心してよい	心相かにして吉	
縁談 心かわらねば叶う		

## 1. 準専用おみくじ

これらのおみくじは、運勢部分のフォーマットから「女子道社」製であると判別できる。しかし、タイトル部分には神社の名称が印刷されており、汎用おみくじとは言えない。汎用おみくじに名称を入れる女子道社のオプションサービスが存在し、このようなおみくじを比較的な価に作成可能なのでは、と予想される。



↑宇佐神宮 (大分)



↑大麻比古神社 (徳島)



↑おみくじボックスに、女子道社製であることが明記されている場合もある

←霧島神宮 (鹿児島)  
運勢部分は汎用おみくじと全く同じフォーマットである。

## 2. 本当に不明なおみくじ

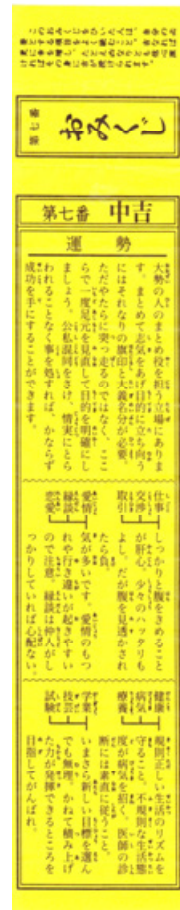
女子道社製の汎用おみくじなのか、はたまた別のおみくじ会社製の汎用おみくじなのか、情報不足のため判別ができない。単に寺社の名称が書かれていないタイプの専用おみくじの可能性もあり、調査は難航を極めている。



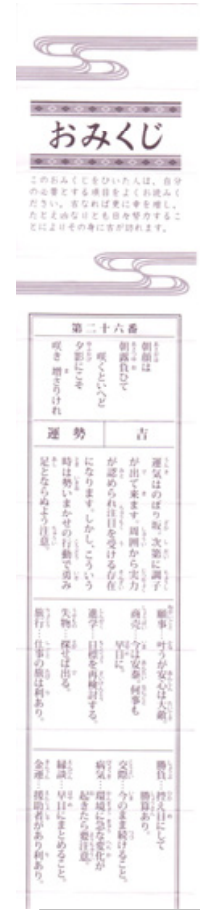
↑女子道社製おみくじである可能性が高い



↑宇治上神社 (京都)



↑青島神社 (宮崎) 色が黄色



↑鷲宮神社 (埼玉)

このみくじにあう人は  
道に迷ってやがて  
本道へ出るよに  
いろいろ悪いや  
間違いがあがる  
自分のあやまちを知り  
これを改め  
神仏を信じ  
心を正せば  
やがて幸せは来る  
○病氣 病氣の災を待ち、参詣  
参詣の行はれればおと  
し、病氣も癒はる  
○恋愛 恋敵はあつた  
互にうとめ合えはば  
○参詣 参詣の注意す  
ればよし  
○参詣 参詣の注意す  
ればよし  
○参詣 参詣の注意す  
ればよし  
○参詣 参詣の注意す  
ればよし

←入手先不明

※全てのおみくじが同じ縮尺ではありません。

# 使用頻度差緩和の取り組み

初出：2004年6月9日

私の通う学科の建物は3階建てである。そして、エレベータが付いている。このエレベータを利用する人の多くは、1階から3階に上がるのが目的であろう。なかなか2階まで上がる（もしくは2階から降りる）ためにエレベータを利用しようとは思わない。

つまり、このエレベータが2階に停止する確率は、1階や3階に停止する確率に比べてかなり低いはずである。このような停止頻度の差が『使用頻度差』の一例である。

『使用頻度差緩和』とは、この使用頻度差を緩和しようとする動きであり、私がさきほど考えた。このエレベータの例では、意識して2階に止まることが使用頻度差緩和となる。



他の例として、男性トイレ使用頻度差緩和を考える（女性の方はごめんなさい）。便器が4つ並んでいるとする。もちろん一番手前にある便器の使用頻度が高いのは明らかであるが、使用頻度が二番目なのは手前から二番目の便器ではなく、おそらく手前から三番目である。一番目の便器が使用されている場合には、二番目を避けて三番目を利用するからだ。さらに、一番目と三番目が使用されている場合、一方が壁である端っこの四番目を利用するのがメジャーな位置取りである（私の経験上、おそらく）。以上より、4つ並んだ便器の使用頻度は、手前から一番目、三番目、四番目、二番目の順であると予想される。

使用頻度差緩和では、誰もいない時にでも一番目の便器は使用せず、

意識的に二番目の便器を使用する。もし便器が3つしかない場合には、明らかに使用頻度の低い二番目を使いたいところであるが、人が来たときに気まずいので、ここは遠慮して三番目を使う。もちろん二番目がベストではあるが、このような謙虚な気持ちも使用頻度差緩和には大切である。

この考え方を拡張すれば、 $n$ 個の便器がある場合の使用頻度差緩和も求まるであろう。



以上のような使用頻度差緩和の考え方を応用すると、電車のロングシートにおける座席使用頻度差緩和などの取り組みも可能であり、その他、応用例は計り知れない。皆様方においても、ぜひともこの使用頻度差緩和の取り組みを心がけていただきたく思うのである。なお、この行為に目的はない。



『使用頻度差を緩和するためにはどこに座るべきか』

# Amazonの箱いろいろ

初出：2008年11月15日

amazon で頻繁に本を買っていると、配送用のダンボール箱（amazon 箱）が増えてしかたない。いろんなサイズの amazon 箱が送られてきては、さっさと捨てられる運命にある。この amazon 箱については、多くの方が同じような感想（＝邪魔）を持っているらしく、ウェブ上では主に梱包に関するさまざまな意見を目にする事ができる。また逆に、この増え続ける amazon 箱を有効に利用してしまおうという動きもあるようで、箱を使ったユニークなアイデアを提案している方々もいるようだ。

やがて私も先人たちと同様に、箱だらけになっていく部屋の様子を見かねて、これは何とかならないものかと思案するに至った。そして、改めて箱を眺めていると、なにやら型番らしき記号が書かれていることに気付いたのである。これはと思い、手元にある捨てる前のいくつかの amazon 箱を調べてみると、どれももれなく型番が付いていることが分かった。

型番が分かったところで、増え続ける箱がどうこうなる気は全くしないが、しかし気になるものは仕方がない。いったい、amazon 箱は全部で何種類くらいあるのだろうか。ウェブ上に情報は無いかといろいろ調べてみたが、箱のサイズや型番について言及している人はいないようであった。ならば仕方あるまい、まずは自分の部屋にある箱で調べてみようじゃないか。



（以下、2008年11月時点での調査報告である）

いくつかの amazon 箱を眺めてみると、どうやら型番は“BX+数字4桁”になっているようだ。まずはオーソドックスと思われる BX01 番台（勝手に命名）を順に重ねてみた。本を買うとまずこのどれかに入ってると思われる。

うちで一番多いのは、BX0110 だろうか。そして、BX0110 より少し浅いのが BX0150 となる。もしかしたら BX0150 も結構送られて来ているのかもしれないが、気にしてないと BX0110 だろうが BX0150 だろうが、どちらでも同じようなものである。



BX0130 には、ほぼ同じ大きさで箱の形状が違うものがあった（左がBX0130）。右の箱には BX で始まる型番は書かれていないが（71-18 が型番？）、これは少し前まで主流だった箱のような気がする。最近はこの右の箱を見ないので、新型にモデルチェンジしたのかもしれない。

※ なお、BX01 番台の写真を撮った時点では BX0120 だけ未入手であったが、その後入手。形状は、昔の箱 71-18 と全く同じものであった。これにより、箱のモデルチェンジ説が濃厚となった。



本ではなく、もっと大きな商品を注文すると、それに応じた大きさの箱に入れて送られてくる。ただ、あまりにも大きな商品は元からしっかりとした箱に入っているため(家電など)、amazon 箱には入れられずに、直接商品の箱で送られてくる場合もある。



入手率は低いですが、サイズが手ごろなので入れ物代わりになっている大きめの amazon 箱が部屋にいくつか残っていた。ひとつは、段ボール箱入れになっていた BX0220 である。



もうひとつは、BX0231 である。底面が BX01 番台より広いのが BX02 番台のようだ。BX0231 は使い勝手が良さそうだが、BX0220 は高さが低くて、内容物を選びそうな形状だ。果たして何を買ったときの箱なのかは、さっぱり思い出せない。



(そして時は流れ、現在は2011年5月である)

一度 amazon 箱の型番を気にしてしまうと、まだ見ぬ型番の箱が届かないものかと、商品と同じくらい“箱”のことが気にかかってしまうようになる。そして結局のところ私は、amazon 箱を蒐集する amazon 箱コレクターとなってしまった。

amazon 箱蒐集の面白いところは、実際に商品が届くまでどんな箱で送られてくるのか分からないところである。実際、小さい商品がサイズ不相应の大きな箱で送られて来たり、普通なら BX1150 で送られてくるような数冊の文庫本が、メール便の簡易包装(JPRAVIOLI)に詰めて送られてきたりする。ありがたいことに、これまでにブログや Twitter 等で新型番の入手報告をいくつか頂いている。しかしながら、箱の存在が分かっていても、実際に入手できるかどうかは別問題なのである。

以下に、これまでに入手している amazon 箱の型番を記す。すでに随分な数が集まっているが、しかし明らかに歯抜けになっている型番もこの一覧から見て取れる。

amazon 箱の蒐集という、受動的で地味な戦いは、今後もまだまだ続くのであった。

BX00番台		BX11番台	
BX0050	235 (W) x 310 (D) x 165 (H) mm	BX1110	255 (W) x 330 (D) x 70 (H) mm
BX01番台		BX1120	255 (W) x 330 (D) x 115 (H) mm
BX0110	255 (W) x 330 (D) x 70 (H) mm	BX1130	255 (W) x 330 (D) x 120 (H) mm
BX0120	255 (W) x 330 (D) x 115 (H) mm	BX1140	255 (W) x 330 (D) x 175 (H) mm
BX0130	255 (W) x 330 (D) x 120 (H) mm	BX1150	255 (W) x 330 (D) x 55 (H) mm
BX0140	255 (W) x 330 (D) x 175 (H) mm	BX12番台	
BX0150	255 (W) x 330 (D) x 55 (H) mm	BX1210	390 (W) x 400 (D) x 360 (H) mm
BX02番台		BX14番台	
BX0220	315 (W) x 415 (D) x 110 (H) mm	BX1420	370 (W) x 465 (D) x 275 (H) mm
BX0231	315 (W) x 415 (D) x 215 (H) mm	BX16番台	
BX04番台		BX1610	350 (W) x 455 (D) x 115 (H) mm
BX0400	250 (W) x 325 (D) x 70 (H) mm	BX1630	345 (W) x 450 (D) x 220 (H) mm
BX0410	370 (W) x 465 (D) x 125 (H) mm	その他	
BX0420	370 (W) x 465 (D) x 275 (H) mm	a528a	140 (W) x 200 (D) x 80 (H) mm
BX05番台		71-18	255 (W) x 330 (D) x 115 (H) mm
BX0530	155 (W) x 1070 (D) x 105 (H) mm		





**BX0110**



**BX0120**



**BX0130**



**BX0140**



**BX0150**



**BX1110**



**BX1120**



**BX1130**



**BX1140**



**BX1150**



**BX0400**



**BX0410**



**BX0420**



**BX1420**



**a528a**



**BX0050**



**BX0220**



**BX0231**



**BX1610**



**BX1630**



**BX0530**



**ダンポー・ミニ  
Amazon ボックス**

**ダンポー  
Amazon ボックス**



**JC3**



**JC2**



**JPRAVIOLI + 内包ダンボール**

# 大学名規模のヒエラルキ

初出：2005年11月27日

TOEIC を受けてきた。これでもう5回目の受験になるが、受験会場は毎度毎度の「四国大学」であった。同じく島名を冠している「北海道大学」、「九州大学」は旧帝大であるが、四国大学は私立である。調べてみると、過去には「本州大学」という私立大学もあったらしい（現在は「長野大学」に改名）。さすがに“本州”の名を冠するのは大きく出過ぎたと思ったのだろうか。

TOEIC から飛躍してなぜか大学名の話になってしまったが、大学名に地域名を冠するのは、国立・私立を問わずにメジャーな命名則であると改めて気付くキッカケとなった。このような大学名について、もう少し調べてみることにする。



まず地域名で見ていくと、国立の「北海道大学」、「東北大学」、「九州大学」、「信州大学」を筆頭に、私立では「関東大学」、「北陸大学」、「中部大学」、「東海大学」、「関西大学」、「四国大学」などが存在するようだ。これだけあるのに、意外と「中国大学」は無いらしい（China にはあるかも）。でもやはり、一番名前の規模が大きいのは「日本大学」だろうと思われる。

このように名前だけで大学をみると、頂点に立つのが日本大学で、その下に地域名を冠した大学（上記の東北大学、九州大学など）がある。そしてその地域名大学の下に、地方名大学（徳島大学など）が位置している、といった階層構造をイメージできる。

これを、大学名の規模だけに注目した『大学名規模』と名付けたい。特定の大学名だけがブランド化し、それが主に大学の人気や偏差値に比例している昨今の大学名事情において、大学名規模の大小は全く意味の無い分類であると断言できる。しかし、単純に面白いからという理由だけで、このまま調査を続けることとする。果たして、日本大学を超える大学名規模を持つ大学は存在するのか。またその逆で、小さな大学名規模の大学は何なのか。



以上のような経緯のもと、私は本格的に大学名規模の調査に取り掛かった。具体的には、日本に存在する全大学名を調べ上げ、規模別に整理を行った。全大学名などと言うと、酷く大変な作業のように思えるが、実は Wikipedia に「日本の大学一覧」という項があり、それを見れば楽に調査することが可能なのであった。Wikipedia 万歳。

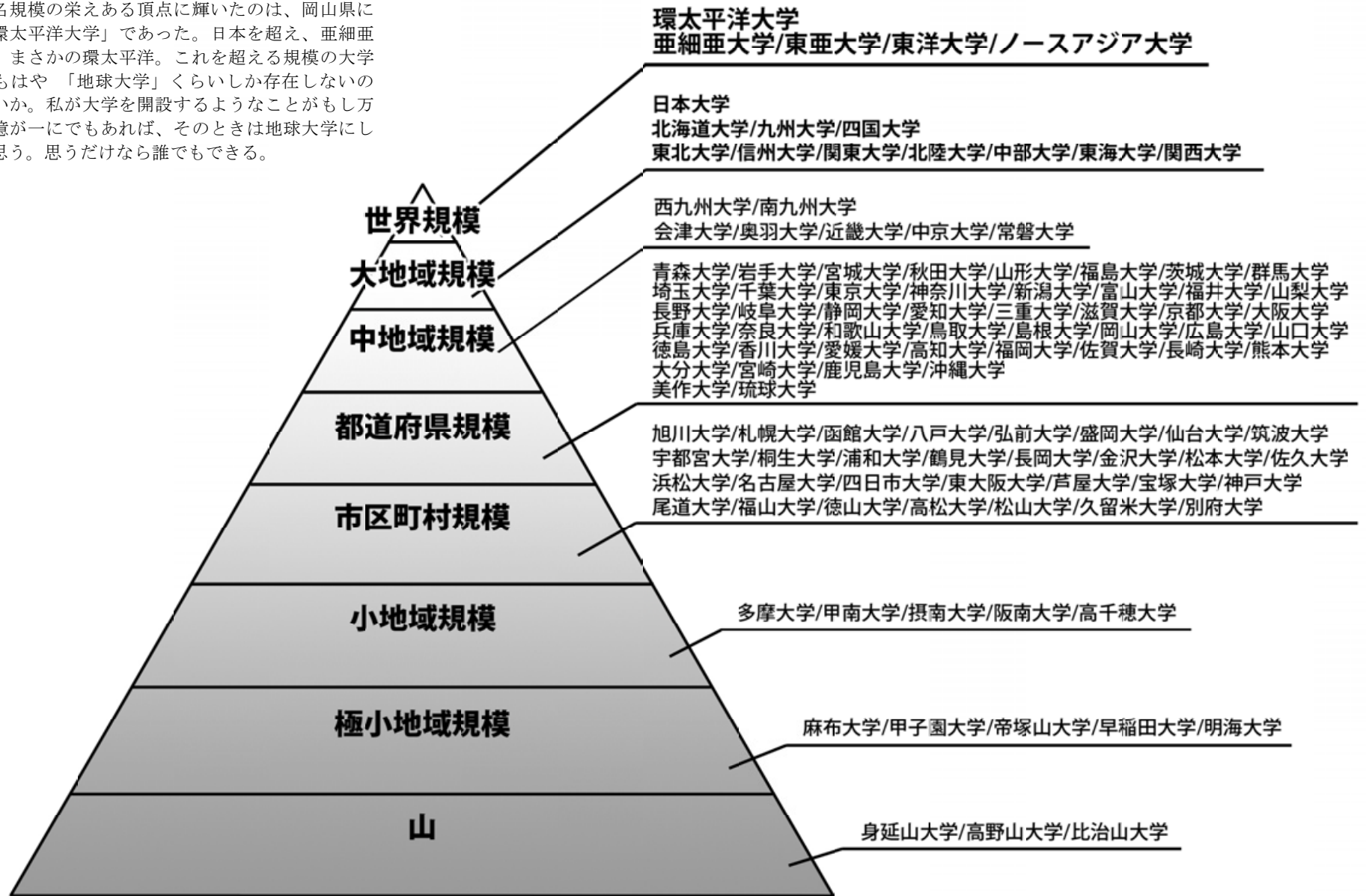
そして、この調査結果を元に、大学名規模の分類と大学名ヒエラルキを独自に定義した。ここでは、純粋に「地域名+大学」という名前の大学だけを対象とした。よって、例えば「東京工業大学」における『工業』のように、余計な名称が付く大学名は除外した。また、「立命館アジア太平洋大学」なども同様の理由で（非常に名残惜しいが）除外した。なお、狭い範囲の地域名が付く大学に関しては、地域名なのかそうではないのかははっきりせず、見落としている可能性もある。その点をご容赦頂きたい。

気になる結果は…… 次ページへ急げ!! ⇒



## 図解・これが大学名規模だ！

大学名規模の栄えある頂点に輝いたのは、岡山県にある「環太平洋大学」であった。日本を超え、亜細亜を超え、まさかの環太平洋。これを超える規模の大学名は、もはや「地球大学」くらいしか存在しないのではないか。私が大学を開設するようなことがもし万が一、億が一にでもあれば、そのときは地球大学にしようと思う。思うだけなら誰でもできる。



# 岬ゆきのバス

初出：2011年5月22日

突然だが、「岬めぐり」（山本コータローとウィークエンド）という歌がある。その一節がとても印象的なので、ここで紹介しよう。

## 岬めぐりの バスは走る

そこかよ！ という突っ込みはさておき、いつの時代も岬とバスは切っても切れない仲なのである。特に、その中でも『岬ゆきのバス』に強い旅情を感じている私が、『岬ゆきのバス』とは何者で、一体全体どうしたらそれが旅情に結び付くのかという点について解説する。



一人旅を始めてから、旅の目的地に岬を選ぶことが多くなった。

まず、岬というのは、行き止まりの先っぽに位置している。そのため、単純に岬に着いたという事実があるだけで、ついにここまで到達したぞ！ という達成感を得ることができる。そのうえ、はるばるやってきた目的地の先に広がるのは一面の青い海、そして青い空とくれば、その開放感たるや想像に難くないであろう。

私の旅の目的は、（多くの人がそうだとは思いますが）日常生活では味わえない感情を、つまりは非日常を味わいたい、というものであ



る。岬を目指す者は、効率を捨て、わざわざ先っぽを目指すという遠回りを体験し、そのうえで普段見ることのできない雄大な景色を眺めることで、その欲求を存分に満たすものとする。

そのような旅の目的地たる“岬”に彩りを添えるのが、岬に至るまでの“過程”である。岬に到達するためには、大きく二つの方法がある。改めて書くまでもないが、ひとつは自家用車であり、ひとつは路線バスである（もちろん徒歩や自転車もあるが、一般的ではないのでここでは除外したい）。これらのうち、大多数の人が自家用車を使用して岬に向かうと思われるが、実はそれはたいへん残念なことである。もう一つの方法、路線バスで岬に至るということは、ただ“バスに乗る”という以上の意味を持っているのである。



ここで、バスで岬に至るまでの道のりを想像してみよう。

岬への旅は、まず岬最寄駅のバス停でバスを待つ瞬間から始まる。自家用車と違ってバスは時刻表に縛られるため、岬へ行くためにはまずバスの発車時刻まで待つ必要がある。ようやく発車したあとも一直線に岬へと向かってはくれず、いくつものバス停を経由し、ゆっくりのんびりと、バスはこちらの目的などは知らぬ存ぜぬ、マイペースに走っていく。

路線バスは、基本的にはその地域の足である。そのため、乗客のほとんどは岬とは無関係に乗っている地元の方々である。特に、それほど観光地化されていない岬の場合にはこれが顕著であり、ひとりだけ旅気分

で乗っている自分が浮いた存在となることも少なくない。要するに、バスの車内は、自分以外の人たちにとっての「日常」なのである。さあこれから岬という非日常に向かうぞ、という段階において、



『「他人の日常」という「自分の非日常」』を味わうことができるのが路線バスなのである。

そして何より、ゆっくりと車窓を流れる景色を堪能できるのもバスの利点である。ただ乗っているだけで目的地まで連れて行ってくれるバス。何もなくて良いし、何も考えなくて良い、何か考えに耽っても良い。このボーっと時間を忘れて車窓風景を眺められるという非日常が、実に贅沢で楽しいひと時であり、自ずと気持ちにも余裕が生まれるというものである。



さて、ここまで「岬に向かうバス」の魅力について紹介したが、実は岬に向かうバスには二種類ある。まず一つ目は、『岬を經由するバス』である。これを、著名な岬である北海道の「襟裳岬」を例にとって説明する。

何もない春であることが有名な襟裳岬へは、その地形形状、東西方向の海岸線に沿って到達することになる。この経路を走る路線バスとして、岬の西側のJR日高本線「様似駅」と、東側の「広尾」（旧・国鉄広尾線「旧・広尾駅」）を結ぶJRバスが運行している（2011年5月現在）。これから分かるように、あくまでこのバスは「様似」と「広尾」という都市間を結ぶものであり、襟裳岬は「経由地」なのである。ゆえに、このよ

うなバスを『岬を經由するバス』と呼ぶ。

そして、もう一つのバスが『岬ゆきのバス』である。襟裳岬と同じく、北海道にある著名な岬である「納沙布岬」を例に見てみよう。納沙布岬は、言わずと知れた日本最東端（北方領土除く）の地点であり、バスで到達するためには、まずJR根室本線の根室駅



↑ 岬を經由するバス

に降り立つ必要がある。根室駅では、行き先が「納沙布岬」のバスが待ち構えていてくれる。そう、ここから乗車するバスは、岬を目指して走るバスなのだ。その終点には何があるのか、岬がある。

先に述べたように、路線バスというのはその地域に住む人々の足である。そのため、このようなバス路線の多くでは、出発時点の乗客は地元の人が大半を占めている。しかし、終点に向かうにつれ徐々に地元の人々は減っていき、最終的には岬に向かう人のみを乗せた、完全なる岬ゆきのバスとなる。つまりこのバスは、徐々に日常から非日常へと変貌を遂



↑ 岬ゆきのバス

げるのである。

『岬を經由するバス』の場合、あくまでも岬は通過点に過ぎない。しかし『岬ゆきのバス』は、乗客を非日常



へといざなうという、岬への橋渡し役も兼ねているのである。岬へ向かう者にとって、これ以上にあつらえ向きな交通手段は他に無いと言えよう。

以上のことから、岬へ行くには「バス」が宜しい。また、同じバスなら『岬ゆきのバス』が宜しい。



ところで、そうは言ってもこの『岬ゆきのバス』、全国でどれくらいの数が走っているのでしょうか。気になった私は、地図を頼りに日本の海岸線を走るバス路線をくまなく調査し、岬ゆきのバス路線を洗い出す作業を開始している。手作業ゆえに、どうしても漏れがあるとは思われるが、最後にその調査結果を一覧で示すと共に、私がこれまでに乗車したことのある『岬ゆきのバス』についても併せて記そうと思う。みなさまもこれを機に、『岬ゆきのバス』に乗って、岬への旅を始められては如何だろうか。

## 『岬ゆきのバス』一覧（最終調査日：2011.05.22）

バス行き先	バス会社	出発地（+乗換え）の例	場所	補足
宗谷岬	宗谷バス	JR 稚内駅	北海道	日本最北端
納沙布岬	根室交通	JR 根室駅	北海道	日本最東端
神威岬	北海道中央バス	岩内BT	北海道	積丹半島
竜飛岬	外ヶ浜町循環バス	JR 三厩駅	青森	津軽半島
尻屋崎	下北交通	JR 下北駅-むつBT 乗換え	青森	下北半島
入道崎	秋田中央交通バス	JR 羽立駅	秋田	男鹿半島
御崎	ミヤコーバス	JR 南気仙沼駅	宮城	唐桑半島
荒崎	京急バス	京急 御崎口駅	神奈川	三浦半島
千代ヶ崎	京急バス	京急 久里浜駅	神奈川	三浦半島
観音崎	京急バス	京急 馬堀海岸駅	神奈川	三浦半島
大瀬岬	伊豆箱根バス	伊豆箱根鉄道 伊豆長岡駅	静岡	伊豆半島
伊良湖岬	豊鉄バス	豊橋鉄道 三河田原駅	愛知	渥美半島
潮岬	熊野交通	JR 串本駅	和歌山	本州最南端
万葉の岬	神姫バス	JR 相生駅	岡山	相生
本山岬	船鉄バス	JR 長門本山駅	山口	小野田
御崎	香美町町民バス	JR 香住駅	兵庫	餘部
日御崎	一畑バス	JR 出雲市駅	島根	出雲
神崎	宇和島バス	JR 宇和島駅	愛媛	宇和島
足摺岬	高知西南交通	土佐くろしお鉄道 中村駅	高知	足摺半島
竜ヶ迫白崎	高知西南交通	土佐くろしお鉄道 宿毛駅-大月役場前 乗換え	高知	大月町
御崎	生月バス	JR 佐世保駅-平戸棧橋 乗り換え	長崎	生月島
赤崎	大分バス	JR 津久見駅	大分	津久見
岬	南さつま市コミュニティバス	JR 鹿児島中央駅-加世田乗換え-野間池 乗換え	鹿児島	野間半島
辺戸岬	国頭村営バス	那覇BT一名護BT 乗換え-辺戸名BT 乗換え	沖縄	沖縄本島最北端

※この一覧は、独自の調査に基づいて作成した調査日時点での情報です。  
お出かけの際には、最新の情報をご確認下さい。

### 灯台問題

地形上は岬であるが、バスの行き先が「岬（または崎、埼）」ではなく、岬に存在する施設の名称となっている場合がある。「〇〇灯台」行きが多いことから、これを灯台問題と名付け、厳密には「岬ゆきのバス」とは区別する。

- ・灯台口(檜野埼灯台) ・御前崎灯台 ・三保灯台 ・石廊崎灯台 ・北山崎展望台
- ・ケープ真鶴 ・鶴の岬温泉 等

### 入口問題

岬に向かう路線であるが、バスの終点が「〇〇岬入り口」などという名称の場合がある。わざわざご丁寧な「入り口」を名乗っているため、これも厳密には「岬ゆきのバス」とは区別する。

### 地名なのかどうか問題

「〇〇崎」という行き先の場合、本当の岬なのか、もしくは単にそのような地名なだけなのか判別が難しい。このような場合には、地図を見て岬名だと判断できた場合に「岬ゆきのバス」として認定した。

# 「岬ゆきのバス」が走る岬

## 竜飛崎（青森）

訪問日：2006/9/10

乗車経路：三厩駅～竜飛崎



◆バスは昔ながらの狭い道を抜けて岬へと向う。バス以外にも、青函トンネル内の「吉岡海底駅」見学コースに参加すると、海底からケーブルカーで竜飛崎へ到達することもできる。そちらのルートも趣深い。

## 日御碕（島根）

訪問日：2010/3/22

乗車経路：出雲大社～日御碕



◆出雲大社とセットでまわれるため、バスで岬に向かう人が比較的多い印象。海岸線を走る距離が長く、車窓からは海がよく見えた。



## 宗谷岬

※バスの行き先方向幕が「宗谷岬」となっているため『岬ゆきのバス』としたが、厳密には「宗谷岬」行きバスはなく、その先の「大岬小学校」行きである。  
(2006年9月15日訪問)

## 納沙布岬（北海道）

訪問日：2006/9/12

乗車経路：根室駅～納沙布岬



◆雄大な自然の中を、バスは岬に向けてひた走る。ちょうど訪問が日の入りの時刻と重なり、日本一早い夕焼けを堪能することができた。

## 御碕（宮城）

訪問日：2009/4/29

乗車経路：太田入口～御碕



◆御碕までバスに乗っていた乗客は私一人だけであった。もちろん帰りも私一人。不便な場所にある場合は、このような状況になりやすい。

## 辺戸岬

## ウェブ配布版あとがき

本PDFは、私がサークル・NEKOPLAとして初めて作った同人誌の再編集版です。オリジナルは2011年の4月から5月にかけて作成し、2011年6月12日の「第十二回文学フリマ」で初頒布しました。そして最終的には、計三版（コピー誌インクジェット版、コピー誌レーザー版、オフセット版）作成し、それら合わせて200部少々がこの世界のどこかに潜んでいるはずですよ。買って頂いた方、本当にありがとうございました。

また、エキサイトレビューに掲載して頂いたのを初めとして、東京カルチャーカルチャーで行われたイベント「ゆるい専門家ナイト」に呼んで頂いたり、アマゾン箱関係で取材を受けたり、リアルでも交友関係が大幅に広がったりと、本書のおかげで、この二年の間に本当にいろんなことがあったのでした。

そんな、個人的には記念碑的な一冊となった本書なのですが、在庫が切れたのをキッカケに、このようなPDF版として無料公開と致しました。「NEKOPLAとは一体なんのサークルなのか？」と聞かれると、一言で答えるのが難しく、これからは本書を自己紹介代わりに使っていただけたらと思ってます。NEKOPLAとは、この本に書いてあるようなことを、つらつらと考えるサークルです。

本書を作ってから以降、半年に一冊のペースで新刊を作成し、これまでに計6冊の本を発行しています。すでに入手不可能な本もありますが、多くは今後のイベントや通販等で入手可能ですので、気になった方はぜひご覧下さいませ！詳しくはウェブで。

2013年5月吉日

## 日常≒非日常

---

2011年 6月12日 初版

2013年 5月12日 ウェブ配布版

編著 斎藤 公輔 (NEKOPLA)

[URL] <http://www.nekopla.com/nnk>

[e-mail] [kawauso@nekopla.com](mailto:kawauso@nekopla.com)

[twitter] @kawausokawauso

---

ねこプラ <http://www.nekopla.com/nnk>

同人誌情報 <http://www.nekopla.com/nnk/plus/dojin.html>